



三到図書館 ニュース

2012年10月発行
No.71

J. F. Oberlin University Library

- ◇巻頭メッセージ
- ◇早野透先生と新聞について語る
- ◇教員からのメッセージ
- ◇新聞の紹介
- ◇LAセミナーとガイダンス報告
- ◇図書館からのお知らせ

📖 巻頭メッセージ

新聞を読もう！ その多様性と偏向を意識して

リベラルアーツ学群教授 佐藤 考一

新聞を読もう。新聞を読むことは、最も手軽にできる読書だ。だが、どうせ読むのなら、大学生らしい読み方をしよう。たとえば、複数の新聞を読み比べてみよう。三到図書館には主要全国紙の他、沖縄の新聞や、英語、中国語、コリア語の新聞もある。一つのニュースについて複数の新聞を読み比べると、その多様な性格がよくわかる。事例を挙げよう。

2012年4月17日に東京都の石原慎太郎知事が公表した、尖閣諸島を東京都が購入する計画について、4月18日から19日にかけて、各紙は社説を掲げた。『朝日新聞』は、政府の外交に悪影響を与える石原発言は無責任だと批判的で、『毎日新聞』、『日本経済新聞』、『東京新聞』も東京都が買うのは筋違いだとしている。だが、『産経新聞』は対中危機意識を前面に出し、石原構想で統治強化を、と支持を表明、『読売新聞』も若干トーンは違うが、都知事の発言を支持した。一方、『沖縄タイムズ』は日中間に緊張感を高めることにつながらないか、と危惧を示した。傾向として、『朝日新聞』は比較的親中の論調が多く、『産経新聞』はその反対だが、この問題をめぐってもそうした両紙の特徴が出た。また、『沖縄タイムズ』は地元が尖閣諸島に近いだけに、紛争激化への心配が批判の背景にあるだろう。

これに対して、新聞の論調に多様性が現れず、偏向ではないかと思うくらい、一つの論調が現れた場合もある。それは2009年12月15日に中国の習近平国家副主席が、天皇と1ヵ月前の申請という外交ルールを破って、特例で会見した時の各紙の社説である。上記のほぼ全紙が、会見を「天皇の政治利用」であると批判

したのだ。実は、私は皇室外交を扱った著書があるため、この時、複数の新聞の取材を受けた。私のコメントは、「政治利用というが、天皇に政治的発言を求めることがなければ大きな問題ではない。革命烈士の息子で、軍に近く、



周囲にたくさん反日派がいる習氏が、天皇との会見を求めたことを、日本政府は重視したのだろう。1ヵ月ルールと、将来の日中関係を見据えた会見の実現とどっちが大事か」というものだった。だが、これは日本の新聞には載らず、旧友が東京支局長を務めている、シンガポールの英字紙、*The Straits Times*にだけ、要約が掲載された。

日本の新聞は、日中友好を願い、国民のために健康問題を顧みず、習氏との会見を承諾した明仁天皇や、日本政府の深慮遠謀への評価よりも、ルール破りの会見実現を鳩山由紀夫首相に働きかけたとされる、小沢一郎民主党幹事長の傲慢さや、無理を押した中国政府への批判を重視した。1つのニュースの多様な性格を知るためには、複数の新聞を読むことが大切であるが、それは時には日系紙だけではダメな場合もあるという事例である。これが、反小沢感情にかられた日本の新聞の視野の狭さを示すものでないことを祈っている。学生の皆さんも、新聞の論調が揃っている時は、何か偏向がないかよく考えて見よう。

学ぶことは市民になること ～早野透先生と新聞について語る



近年は新聞を読まない学生が増えていると言われています。改めて新聞を読む意義について考えてみると、学生たちが、リベラルアーツ学群教授の早野透先生にお話を伺いました。早野先生は朝日新聞記者、編集委員を経て、現在は本学でジャーナリズムについて教鞭をとっておられます。

参加したのは、山中きりんさん（リベラルアーツ学群1年）、酒井明沙子さん（総合文化学群1年）、西野楓さん、山内千晶さん（以上、リベラルアーツ学群4年）、司会は図書館メディアセンターの佐々木課長です。

◆昔の新聞は文字が多い？

佐々木：ここにあるのは『朝日新聞』の、昭和20（1945）年8月14日、15日の1面です。8月14日と15日は終戦前日と当日ですね。

山中：今の新聞より写真が少ない。文字での情報が多いです。文字が堅苦しいですね。

山内：今の新聞と比べて広告が少ないです。

酒井：活字が小さくて文字が多いです。

西野：やっぱり戦争中だから戦争の記事が多い。戦争のことばかりだと感じました。

早野：ご存知の通り8月15日は終戦の日です。それからなぜ戦争の記事が多いのか？ みなさんは「15年戦争」という言葉を聞いたことがありますか？ 昭和6（1931）年に満州事変が勃発、昭和16（1941）年12月8日に太平洋戦争が始まり、そして昭和20（1945）年8月15日に敗戦となりました。この長い期間を一般的に「15年戦争」と言います。この戦争で約300万人が亡くなりました。とにかくずっと戦争が続いていたから、これが日常だったのです。広告が少ないのは経済活動ができていないからです。紙も不足していたので、新聞もだんだんページが少なくなり、最後は裏表の1枚だけになりました。新聞はその時代を反映しているということが言えるのです。

西野：終戦の前日までの記事は嘘だったのですか。日本軍はとても勢いが良いように書いてあります。

早野：みなさんは「大本営発表」と言う言葉を聞いたことがあるかな？ その頃ニュースの素となる情報は軍部から流れてきました。新聞や雑誌は大本営発表に基づいて戦争のニュースを伝えました。戦争は、最初は勝っていたが1年後にはもう負け始めていた。けれども軍部が嘘の発表をし、真実を伝えようとする新聞を検閲しました。違反すると国家の法律で処罰され自由に書けなかった。そして国民は、日本は連戦連勝だと思っていたのです。

◆連載漫画と報道写真

佐々木：これは昭和37（1962）年の7月の新聞です。昭和20年の紙面と比べるとどうですか？

酒井：『サザエさん』！ こんな昔からあったんだ！

山中：字が堅苦しくない、っていうか、読みやすい。

西野：広告が増えているということは、経済活動が再び活発になってきた証拠ですね！

酒井：新聞が漫画を取り入れたのはなぜですか？

早野：例えば新聞の社会面には世の中の普通じゃな

いことが載っている。それだけではとても堅苦しいし息が詰まります。そこで庶民の日常のほのぼのした生活を描いた漫画、戦争の反省を込めた社会風刺漫画など、活字では表せないことを、一般市民にもわかりやすく表現するものが必要だったのです。



（左から）山中さん・西野さん

酒井：そうだったんですか。

早野：昭和20年代のメディアは新聞とラジオ、それからテレビです。新聞に初めて写真が掲載されたのは、日露戦争の頃からです。当時の写真機は重くて持ち運びが大変だった。撮影されたフィルムは遠いところから新聞社に届けられ現像され紙面に印刷される。とても大変だったのですが、次第に技術が進歩して簡単に掲載できるようになりました。

◆みんなで感動する時代

早野：日本にテレビが登場したのは昭和28（1953）年、NHKと日本テレビが開局しました。テレビは当然写真よりも臨場感がある。何しろ絵が動いているし音声もついている。テレビ放送が始まった頃、街頭テレビというものがありました。みなさんも歴史の記録映像か何かで見たことがあるでしょう。街頭、つまり広場や商店街に大きなテレビを設置して道行く人々がみんなそれを見たんです。

佐々木：テレビは感動の同時体験ができる。新聞はひとりで読む。なぜこんなことを言うか？ パブリックビューイングで若者たちが同時にサッカーを観戦します。これは言わば「街頭テレビ」ですね。

早野：そうですね。

佐々木：現代の若者が「現代の街頭テレビ」でサッカーを観戦し、みんなでいっしょに感動を共有する。きっと若い人たちにとってこれはとてもだいじな体験なんだと思います。

山内：どういうことですか？

佐々木：今の若者は、みんなでいっしょに感動を分かち合うことに価値を見出し、ひとりで新聞を読むことはあまり価値を見出さないのではないかな？

早野：テレビには即時性、臨場感があり、同時に体験の共有ができる。これが映像メディアの特色です。それに対して新聞は個人で読むものです。つまり自分ひとりと新聞の関係です。そして、ひとりひとりが同じ新聞、同じ記事を読むことでそれが共通の話題となる。これも新聞の重要な機能です。ひとりひとりが新聞を読むことで、いま日本は、世界はどうなっているのか、ひとりひとりが学びながら、新聞を通してそれぞれの認識や知識が共通化されていく。新聞は、自分で記事を読んで、それを一度自分の頭の中を通過させなければならない。テレビは

「ただ見ている」人が多い。いまの若者の多くはインターネットをテレビと同じように使っているのではない。情報を自分の頭の中で分析して知識に変えていかないとはいけない。

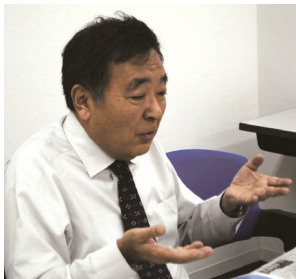
山中：テレビから得られる情報は、瞬間的に興味があるところだけに意識がいて、しかもそれはあっという間に過ぎていく。でも新聞は細かい情報が載っているし、文章になっているので繰り返し読めますよね。最初は難しくても繰り返し読めば理解しやすい。ひとつの情報に向き合うにはテレビより新聞の方が良いのかな。

◆学生時代に批判する目を養う

早野：社会面が一番身近なニュースを載せるところで、読者の共通の関心事がトップニュースになります。だけど、ここが重要なんですが、あまり大きく載せていない、あるいはあまり載せたくないというニュースにも目を光らせることも大切なのです。

酒井：どういうことですか？

早野：そこに書かれている記事は正しいのか、正しくないのかを批判する目を、新聞を読むことで養ってほしいのです。さっきの「大本営発表」と同じです。大学時代の学びで批判する力を養う。そのための方法のひとつとして、新聞を複数紙読むこと。例えば脱原発というスタンスでも『朝日新聞』『読売新聞』『東京新聞』では取り上げ方が



早野透先生

異なる。反原発集会の扱い方を見てください。記事の大きさ、写真の大きさが全然違うのがわかりますね。

酒井：ほんとうだ、なんでだろう？

早野：同じ記事の扱い方の違いはどこから来るのか。どれが正しいのか。それを自分で考えてみるのです。社会で起きていることを、自分の目で見て、新聞を読んで、そして考える。いろいろな情報から自分で判断する。その判断する力を身につけることが必要です。例えば政治が悪いといっても、政治家は国民の一票によって選ばれています。その政治が正しく機能しているのか、それをきちんと監視することが必要。それは投票権が公平に与えられている私たちの責任でもあるのです。そうしないと、自分たちの望まない政治が機能するということも起きてしまう。

山内：望まない政治、ですか？

早野：そう、例えばナチスの、ヒトラーの独裁政治が良い例です。私は知らないとか、言うのは簡単ですが、見過ごすのも私たちの責任です。

酒井：私は来年から選挙権があるから、自分でちゃんと考えて投票しなければと思いました。政治に興味を持たないといけないですね。

◆新聞は民主主義の装置

早野：友だちは新聞を読んでいますか？

山中：私の周りではあまり読んでいないです。

山内：私のゼミでは、新聞を読んでいないと置いていかれた気分になります。

早野：新聞は民主主義の装置です。ひとりひとりが社会に向き合い、自分で考えて社会に発信していく。

そのとき私たちは、その他大勢の大衆ではなく自立した市民になるんです。判断できる力を持った市民になる。学ぶことは市民になる



(左から) 酒井さん・山内さん

こと。その市民を作り出す力が新聞にはあります。

佐々木：学生のみなさんも図書館に来て新聞を読みましょう。みなさん、今日はありがとうございました。(7月27日 理化学館 S 102会議室にて)

参加者の感想

酒井さん：私は新聞を読むのが苦手です。しかし今回の座談会で、これからは得た情報を自分の中で考え消化し、そこから自分の意見を発信できる人になるべきだということに気がきました。私は来年二十歳になり、選挙権を持つことになります。それは自分の未来だけでなく、日本の未来も考えるということです。今、日本が、世界がどうなっているのを知り、考え、発信するためにこれからは幅広い知識を持つために新聞も読んでいきたいと思います。

山内さん：この座談会を通して、新聞は「判断力」をつける練習になるんだな、と感じました。何が正しくて何が間違っているのか、はたまた自分にとって何が有益で何が損なのか…。早野先生やみなさんのお話を聞いて、その力をつけるためには新聞一紙では足りないと感じることができました。そしてそれをいかに義務感からでなく、自分から率先して読めるかというのもこれからの私の課題です。その課題を克服するためには、図書館はうってつけの場所だと思いました。

西野さん：早野先生とお話をして特に印象に残ったのは、早野先生のかっこよさだった。昔のことも今のことも、世界のことも日本のことにも知識が深い。踏み固められた知識が意見に説得力を持たせていた。座談会を終えた今でも、「新聞を読むのは大人になるための通過儀礼」という言葉には魅力を感じない。とはいえ、全く新聞を読まなかった私でも、気が向いた時にさっと流し読むことが増えた。義務感ではなく、かっこいい大人の真似をして新聞を読みたい。

渡辺佑太郎さん(リベラルアーツ学群1年)：座談会当日は授業があって参加できませんでしたが、みんな新聞に関する議論をしてとても楽しかったです。ニュースも、テレビやインターネットを眺めるだけで終わっていましたが、でもインターネットだと、結局自分が興味のあることしか見ないので、その周辺にある関連したニュースを見ずに終わってしまいます。その点、新聞はいろいろな情報が一気に目に入るし、関連記事も読めるということを改めて感じました。今回の企画がきっかけで新聞の良さがよくわかりました。

 教員からのメッセージ

英字新聞で英語力と会話力をつけよう

リベラルアーツ学群専任講師 出島 有紀子

「どうしたら英語ができるようになりますか。」よく聞かれる質問です。私は「英文をたくさん読むこと」と答えます。留学中は英語が話せていたのに、帰国するとあっという間に英語を忘れてしまう、というのは「読む」経験の不足のためです。「読む」経験をたくさんした場合は、英文読解力はそう簡単に低下しませんし、英会話も以前できていたレベルに戻るの簡単です。なぜなら、会話だけ勉強したときは最近聞いたことのある表現を借用して使うことが多いのに対し、「読む」経験を積んだ場合は文字や例文として記憶しているため、自分の語彙としてしっかり獲得できるからです。

次に「何を読めばいいですか」と聞かれます。授業で英語の文献を扱ってれば、その文献を毎週でいいいにしっかり読んでいくのが一番なのですが、それでは足りない、自分で何かしたい、という場合は、英字新聞をおすすめします。日本の英字新聞に載っているニュースは、日本語の新聞やテレビのニュースで目にしているものと共通のものが多く、英文が多少難しく感じても内容を推測しながら読むことができます。また、記事の内容は話題にしやすいので、読んだ英語表現をすぐに英会話に使えます。さらに、日本の英字新聞は日本文化を学ぼうとしている外国人も読者に想定しているため、日本の文化や社会について英語で説明している記事が多くあります。外国人に日本のことを聞かれ、わからなくて困ったという経験はありませんか。英語で会話をするとき、相手は日本人ではありません。あなたが日本人なら、当然日本のことを聞かれる機会は多いでしょう。したがって、自分の国のことを英語で説明できるようになることが、英語を学ぶ上でとても重要なのです。英字新聞で日本について書かれた記事を読めば、なるほど、これはこういう英語表現で説明するのか、と感心するでしょう。自分であたりまえだと思っている日本独特の習慣や社会現象も、それを説明する独特の表現を知らないで英語で説明するのは難しいのです。

では、英字新聞はどこで手に入るのでしょうか。通学途中のコンビニやキオスクを見てみてください。*Daily Yomiuri* や *Japan Times* が売っています。週刊 *ST* は日本語も入っていて読みやすいです。買って持ち歩き、いつでもどこでもパラパラ見るのが一番お

すすめの読み方ですが、買うのはちょっと…という人は三到図書館に通いましょう。*Japan Times* や *Asahi Weekly* は図書館で読むことができます。*Daily Yomiuri* は図書館のデータベース「ヨミダス歴史館」で記事検索して読むことができます

（利用は学内のみ）。「この記事を邦文で読む」をクリックすれば、同じ記事の日本語版（『読売新聞』の記事）を読むことができます。両方とも印刷できるので、これを持ち歩いてもいいでしょう。

英語が得意な人は海外の新聞を見ると、さらに会話に使える話題が見つかります。たとえば最近のイギリスの新聞では、「エリザベス女王の即位60周年記念式典で最も感動した瞬間ベスト10」という記事があったり、英国首相夫婦が8歳の娘をうっかりパブに忘れてきたこと（お互いに相手の車に乗っていると思って気づかなかったそうです）が話題になったりしています。それぞれについておもしろい風刺漫画が載っています。私はイギリス文化が専門なのですが、イギリスに暮らしたことのある人やイギリスの新聞を調べたゼミ生は、「イギリスの新聞は日本の新聞よりもおもしろい」と言います。そう思える理由には、イギリスでは新聞は定期購読されるより店で買われることが多いという文化的背景があります。読者は毎日店で「今日はどの新聞を買おうか」と選ぶわけですから、新聞各社は魅力的な見出しや写真、読んでおもしろいと思える記事を提供しようとしのぎを削っているわけなのです。種類も豊富で、朝刊の高級紙、大衆紙、夕刊紙、日曜紙などがあります。三到図書館で読める *The Times* は朝刊の高級紙、*Sunday Times*（*Times* の日曜版ではありません）と *The Observer* は日曜紙です。大衆紙は大学図書館にはふさわしくないで入っていませんが、発行部数は高級紙の4～5倍です。英語もいわゆる標準英語ではない言葉が多く、私たち英語学習者には読みにくいのですが、写真や絵がメインで文章は多くありません。スポーツやファッションの話題は豊富です。イギリスに行ったらこういう新聞も見えてみると、イギリスをより深く知ることができるかもしれません。



新聞の紹介



桜美林大学図書館でどのような新聞を所蔵しているかご存知でしょうか。図書館では約50種類の新聞を受入れています。国内の新聞のみならず、海外はアジア、ヨーロッパ、アメリカからも取り寄せています。過去のデータや記事を調べたいときは新聞の縮刷版はもちろんのこと、検索が簡単にできる新聞記事検索データベースなども利用できます。また、様々な業界に特化した新聞もあります。発行頻度は、日刊や週刊などとそれぞれ違いますが、最新の新聞は図書館1階の「新聞コーナー」にあり、それ以前の新聞は「バックナンバー」として縮刷版が置いてある部屋にあります。日本の主な新聞は4ヶ月、海外の新聞は1年間保存しています。それでは、どんな新聞があるのか見てみましょう。

<日本 四大紙>

読売新聞（発行部数業界1位）
朝日新聞（発行部数業界2位）
毎日新聞（発行部数業界3位）
日本経済新聞（発行部数業界4位）

<地方新聞>

東京新聞、神奈川新聞、沖縄タイムス、琉球新報

<スポーツ新聞>

日刊スポーツ（発行部数業界8位）

<英字新聞>

The Japan Times（日本の代表的な英字新聞）

<海外の新聞>

The Wall Street Journal（アメリカ）
（発行部数：米第2位）
New York Times（アメリカ）（発行部数：米第3位）
The Times（イギリス）
Frankfurter Allgemeine（ドイツ）
Le Monde（フランス）
Комсомольская правда（ロシア）
人民日報（中国）
ハンギョレ新聞（韓国）

この他にも多くの海外新聞がありますので、是非手にとって読んでみてください。

※発行部数については、世界新聞協会「World Press Trends 2008」データを参照

<縮刷版>

朝日新聞、日本経済新聞、
日経流通新聞、日経産業新聞、
The Japan Times

<新聞記事検索データベース>

★国内
聞蔵Ⅱビジュアル（朝日新聞）
毎索（毎日新聞）
日経テレコン 21（日本経済新聞他）
ヨミダス歴史館（読売新聞）

★海外
LexisNexis at lexis.com
ProQuest Central
The Times Digital Archive 1785-1985



「新聞コーナー」



「バックナンバー / 縮刷版」

<業界新聞>

（それぞれ専門分野に特化した新聞）
日本教育新聞、ブライダル産業新聞
環境新聞、映像新聞、クリスチャン新聞、他

<マイクロフィルム>

新聞や雑誌などの資料を縮小撮影したフィルムのことをいいます。小さな面積に多くの情報を記録することが可能であり、省スペース性に優れています。また、適切な保存を行えば100～500年持つとされており、保存性にも優れています。図書館情報メディア室では、明治5年～昭和47年にかけての『東京日日新聞（現『毎日新聞』）』、『旧中外商業新報（現『日本経済新聞』）』、『横浜貿易新報（現『神奈川新聞』）』、『信濃毎日新聞（長野県）』などを所蔵しています。他に海外の新聞も数多く取り扱っています。読み取りには、マイクロフィルム・リーダー・プリンタと呼ばれる専用の機械を使用します。利用に際しては、情報メディア室のカウンタースタッフにお訊ねください。

ここで紹介した新聞以外にも多くの新聞が揃っています。使い方は人それぞれですが、例えば時事問題について知っておきたい、あの問題について海外ではどのように取り上げられているのかを知りたい、就職活動や語学学習に役立てたい、などさまざまだと思います。是非あなたに合った新聞の活用法を探してみたいかがでしょうか。

（村上祐司、糸数ナンシー美香）

2012年度「リベラルアーツセミナー」における 図書館ガイダンスとアンケート結果について



1. 「リベラルアーツセミナー」の図書館ガイダンスについて

図書館では新入生を対象にオリエンテーション期間に図書館の案内や検索説明などを実施しているが、リベラルアーツ学群では基盤教育科目である「リベラルアーツセミナー」の授業の中で、希望する教員のクラスにおいて、図書館ガイダンスを実施している。今年度（春学期）は61クラス実施し、853名の学生が参加した。

LAセミナーの図書館ガイダンスの内容は、PCを使つての検索実習（蔵書検索、新聞などのデータベース検索）と館内ツアー（三到図書館、図書館情報メディア室）である。

何週目の授業で図書館ガイダンスを実施したいか、事前に各教員に希望調査をとるが、授業の前半から中盤での実施を希望する教員が多く、同時時間帯に最大3クラス実施することになる。3クラス同時に実施する場合は、2クラスは前半・後半で検索実習と館内ツアーを入れ替えて実施し、1クラスは別教室にて実施している。

検索実習は明々館のPC教室で実施するため、図書館と離れており、移動に時間がかかることや、データベースにはアクセス数の制限があるため、ガイダンス時期のみ新聞記事検索のデータベースについてはアクセス数を増やして対応しているが、一斉にアクセスすることによるサーバの負荷などによって、ネットワーク環境に影響が出る場合もある。また、教員によって授業の進め方やスタイルが異なるため、個別の要望への対応や、狭い図書館内でのツアー方法など、多くの課題があるが、受講者側が感じている問題点や要望を明確にするために、今年度、教員へのアンケートを実施した。

2. 教員アンケートについて

質問項目は5つである。（右資料参照）

26名からの回答があった。

「1. 内容は理解できましたか」という質問については、「大変よく理解できた」と「理解できた」への回答数が22あり、全体の84%であったが、コメントでは学生によって理解度に差があるという点が多く指摘された。

1. 内容は理解できましたか		
選択肢	回答数	%
①大変よく理解できた	6	23
②理解できた	16	61
③普通	2	8
④あまり理解できなかった	0	0
⑤理解できなかった	0	0
他	2	8
計	26	100

2012年度 LA セミナー図書館ガイダンス教員アンケート

2012.07.18

今年度実施した LA セミナーの図書館ガイダンスについてお伺いいたします。
今後の参考にさせていただきますので、ぜひご協力ください。

回答締切: 8月3日(金) 提出先: t-eturan@obirin.ac.jp (図書館メディアセンター 情報サービス担当)

1. 内容は理解できましたか。(学生が理解できたという視点でご回答ください。)

①大変よく理解できた ②理解できた ③普通 ④あまり理解できなかった ⑤理解できなかった

コメント等: 理解できなかった点などお聞かせください。

2. 説明の仕方はわかりやすかったですか。(学生がわかりやすかったという視点でご回答ください。)

①大変わかりやすい ②わかりやすい ③普通 ④ややわかりにくい ⑤わかりにくい

「④ややわかりにくい」及び「⑤わかりにくい」と答えた方のみお答えください。その理由は、

①声が聞き取りにくい ②説明が不明瞭 ③説明が単調 ④その他()

コメント等

3. ガイダンスは LA セミナーの授業に役立ちましたか。

①大変役に立った ②まあまあ役に立った ③あまり役に立たなかった ④全く役に立たなかった

コメント等: 役に立った点や役に立たなかった点をお聞かせください。

4. その他、ガイダンスについて気づいたことをお聞かせください。

5. 今後のガイダンスについてのご意見・ご要望をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。アンケートの集計結果については、三到図書館ニュースなどで公表することがあります。

桜美林大学
図書館メディアセンター
情報サービス担当

「2. 説明の仕方はわかりやすかったですか」という質問についても「大変わかりやすい」と「わかりやすい」への回答数が19あり、全体の72%であった。しかし、1の質問と同様に学生が集中して聞いていればという条件付の回答が目立った。また、見学については「学生を仕切ってほしい」などの要望もあった。

「3. ガイダンスはLAセミナーの授業に役立ちましたか」という質問については、「大変役に立った」という回答が一番多かった。図書館を利用するきっかけとなっていることや、「レポート作成の際に図書館で必要な文献を探すことができた学生が多くいた」というコメントがいくつかあった。また、あまり役に立たなかったという回答では、「学生がネットに頼り図書館に行かない」というコメントもあった。

2. 説明の仕方はわかりやすかったですか		
選択肢	回答数	%
①大変わかりやすい	5	19
②わかりやすい	14	53
③普通	2	8
④ややわかりにくい	1	4
⑤わかりにくい	0	0
他	2	8
無回答	2	8
計	26	100

3. ガイダンスはLAセミナーの授業に役立ちましたか		
選択肢	回答数	%
①大変役に立った	16	61
②まあまあ役に立った	7	27
③あまり役に立たなかった	1	4
④全く役に立たなかった	0	0
他	1	4
無回答	1	4
計	26	100

「4. その他、ガイダンスについて気づいたことをお聞かせください」という質問に対しては、「普段図書館を利用する学生達から良く質問される点を具体的に挙げながら、説明をしていただくと、学生達にとって理解がより深まるのではないか」、「新聞縮刷版のある場所」や「新書類や文庫類が別に並べられてあること」などを周知してほしい。ガイダンス時に使用した「ワークシートが効果的だった」「一つ一つの動作を指示するよりも、『このページから、～を探してみよう』のように最初から課題を与えてみてはどうだろうか」などの意見があった。また、「移動時間が無駄」や図書館ツアーと検索実習の順番についての改善要望もあった。

「5. 今後のガイダンスについてのご意見・ご要望をお聞かせください」という質問に対しては、「図書館内で時間を取って自由に本を探すことなどをさせたい」「文献検索の仕方に、もう少し時間をかけて詳しく行ってほしい」「実際に本や資料に触れさせないと効果に乏しい」「前半にパソコンで検索した図書を、後半の館内ガイダンスの際借りる手続きをさせたい」というように、内容や方法についての具体的な要望がいくつかあった。

アンケートの結果から、多くの教員が図書館ガイダンスは学生にとって必要だと考えており、内容や説明についてはそれなりの評価をしながらも、学生によって理解度に差があると感じていることがわかった。また、検索実習や図書館ツアーどちらにおいても実際に体験させるような実践型の内容を希望していることがわかった。

このアンケート結果からわかったことを踏まえ、より多くの学生が内容を理解し、図書館を利用するきっかけとなるようなガイダンスを目指して今後も取り組んでいきたい。

アンケートにご協力いただきました先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

(高橋瑞江)

図書館からのお知らせ



■「卒論・卒研作成支援」のお知らせ

図書館では、「卒論・卒研作成支援」として3年次の専攻演習・ゼミ論、4年次卒業論文作成の支援・サポートを行っています。

クラス単位ではなく、学生ひとりひとりの疑問に対し支援を行います。卒論・卒研を履修登録したものの、どうやって資料を集めたら良いかわからず困っていませんか。効率良い資料の集め方やヒント、ツール等を案内いたします。ぜひご利用ください。

支援・サポートを希望される方は、申込用紙に記入して、図書館のレファレンスカウンターに提出するか、メールに添付して、下記アドレスまで送信してください。

申込み用紙は図書館ホームページ「ニュース一覧」2012年度にあります。

申込先・問合せ先 内線：4131

TEL : 042-797-1426 Email : t-eturan@obirin.ac.jp

■図書館 OPAC がリニューアルしました

9月10日よりOPAC（図書館蔵書検索）が新しくなりました。新しい機能が付き、検索が便利になり、画面が見やすくなりました。



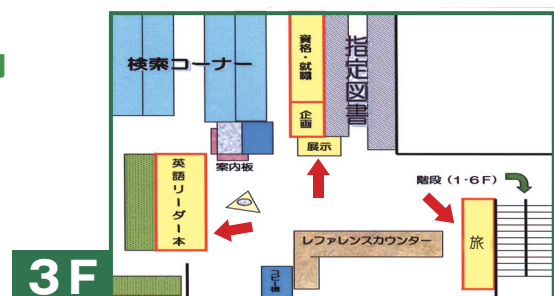
新機能の一部を紹介します。

- 図書の表紙画像や内容・目次情報、Amazonの書評などを表示します。
- 絞込検索（ファセット）機能により、目的の資料へ素早くアクセスできます。
- 検索した資料を「私の本棚」にメモを付けて登録することができます。
- CiNiiや国立国会図書館などの外部データベースをタブを切替えて検索できます。

■三到図書館 3 階

【英語リーダー本、資格・就職本】移動のご案内

英語リーダー本の充実のため、レファレンスカウンター周辺の図書が移動しました。



● 編集後記 ●

『火星年代記』などで知られる米国SF小説の巨匠レイ・ブラッドベリ（1920～2012）が亡くなった。代表作『華氏451度』（1953）に描かれた近未来社会では、世の中に氾濫する情報はすべて映像や音声という感覚的なものに限られ、じっくりと思索するための読書や図書の所持が厳しく禁じられている。またこの世界では、図書を所持しているものは逮捕され、図書はただちに焼き捨てられることになっている。／もちろんこれはフィクションであり、現実の世界では映像、音声と図書は共存している。しかしこの現実社会でも、誰から禁じられたわけでもないのに、みずから映像や音声にばかり頼り、読書をおろそかにしている気配が感じられる。／ウェブ上に溢れる情報を、感覚を頼りに選び出す技術もだいじだが、その真贋を見抜く力、文章を読み込んで判断する技術が伴わなければ意味がない。※注：華氏451度とは、紙が自然発火する温度≒摂氏233度のこと。（S）